

宮城県指定廃棄物最終処分場建設

田代岳(箕ノ輪山)の候補地白紙撤回に向けて

環境省に質問書を送付

東京電力福島第一原発事故で発生した県内の指定廃棄物の最終処分場建設候補地の一つに、本町の田代岳(箕ノ輪山)が選定されたことに関し、町はこれまで、環境省が選定する際に使用した詳細データの提示を求めてきました。これに対し、環境省からは2月28日から4月18日まで3回に分け、数枚の図面の提示がありました。しかし、いずれも地すべり地域や山の斜度などが明示された程度のもので、町が求めていた詳細データとは大きく



田代岳中腹から見える箕ノ輪山。斜面崩壊が随所に見られる

く掛け離れており、納得できるものではありませんでした。そこで、町は4月30日、環境省に選定過程における疑問を具体的に示した質問書を送付しました。内容については次のとおりです。(二部要約)

●候補地抽出及び選定過程等について

●観光に及ぼす影響を避けるため年間入込客数50万人以上の観光地が位置する市町村行政区を除外するとされている。本町のやくらい観光施設群の年間観光入込客数は76万人超で推移している。なぜ、やくらい観光施設群が除外する地域に該当しないのか。

●最終処分場候補地の条件である「なだらかな地形(平均傾斜が15%以下)」の定義と、このことを抽出条件とした理由。また、田代岳候補地(7・9ヘクタール)内は、平坦地と急傾斜地とが混在する地域であるが、平均傾斜の計算方法は、

●田代岳(箕ノ輪山)は、地元では風の強い所、豪雪地帯として知られている。これら気象観測に関するデータの提示と、気象データが不足するのであれば、複数年の観測が必須と思うが。

●環境省から提示のあった地すべり地形箇所を見ても、田代岳を取り巻く一帯が地すべり地帯であることが示されている。候補地選定に際し田代岳と近接する地すべり地帯との相関関係がないと判断した根拠は。

●平成7年度鳴瀬川農業水利事業二ツ石ダム原石山等環境影響調査業務報告書によると、採掘終了後には、崩壊・崩落が加速し鳴瀬川水系と江合川水系の分水界の

崩壊が大規模に進行する恐れがあると明示されている。環境省では、この資料を確認されたのか。

●平成20年度鳴瀬川大崎農業水利事業、二ツ石及び岩堂沢ダム環境影響調査業務報告書によると、当該地はクマタカなど絶滅危惧種である猛禽類の繁殖地であり、田代岳も原石採取後、徐々に狩場となってきた。

また、田代岳の半径4メートル圏内には、クマタカのほか、オオタカ、サシバナなどの繁殖も確認されている。自然環境の保全・整備、野生動植物の保存等が環境省の大きな役割となっている中で、環境影響調査の必要性をどのように考えているか。

●田代岳(箕ノ輪山)から1メートル圏内の東側にウトウ沼、南側に谷地平沼がある。ウトウ沼には国際自然保護連合によりレッドリストの軽度懸念の指定を受けているハッチョウトンボ(宮城県では絶滅危惧I類に指定)という日本で最小のトンボが生息していること

が確認されている（宮城教育大学環境教育研究紀要第6巻）。このことから、谷地平沼における生息調査も必須と思われるが、環境省ではどのように考えているのか。

●最終処分場建設に伴い、起こりうる風評被害の内容・規模について、どのように想定しているのか。

また、自然災害や人為的なミスなどによる事故が発生した場合の対策（冬期間含む）について、どのように考えているか。

●最終処分場候補地になった3カ所から、必ず1カ所を選定するのか。それとも、3カ所とも不適地とすることもあり得るのか。（以上）

なお、町では今後も環境省に対して、回答に対する再質問や処分場の安全性などに関する質問書を送付する予定です。これらの内容については、随時、「広報かみまち」などでお知らせしてまいります。

国・県・3市町長会議

5月26日（月）、宮城県庁において環境省、県及び候補地

となった栗原市長、大和町長、加美町長による会議が開催されます。

この会議は、県の仲介により開催されるもので、環境省からの経過説明などや意見交換の場とする内容で、候補地への詳細調査立ち入りを前提とするものではありません。

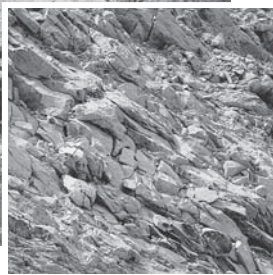
田代岳（箕ノ輪山）について、地元では「山が動いている」と昔から言われており、事実、田代岳周辺の、特に東側に地すべり地域が数多く存在しています。現地の雪解けに伴い、町独自による地積測量や沢沿いの地すべり、斜面崩落状況

などを確認し、会議では、その時に撮影した写真などを用いながら除外要件など候補地選定の手順や事前調査の進め方などに問題があったことを指摘することになっています。

町は今後も環境省による詳細調査の立ち入りを拒否し、田代岳国有林は地すべりなどの自然災害の起こりうる地域であるため、最終処分場候補地には不適地であることを実証してまいりますので、最終処分場建設の候補地白紙撤回に向けて、皆さんのご理解、ご協力をよろしく願います。



一部の斜面が崩落し、泥岩が露出した箕ノ輪山採石跡地



露出した岩肌の拡大写真

各団体の意見

3月21日、宮崎福祉センターで行われた「指定廃棄物最終処分場候補地の白紙撤回を求める緊急住民集会」で、各団体長から次のような意見が述べられました。（要約）

三浦静也 JA加美よつば組合長

減反、TPP、JA解体論に指定廃棄物問題と、JAは4つの問題に直面している。そんな中、1月20日の候補地発表後に加美米を取引している7社中5社から「取引できない」と電話が入った。最近、放射能の風評被害も落ち着いたやさきである。「食と緑と水を守る」ため、県内設置について反対運動を強めていく。

府田政之 加美商工会長

地域特産品の開発に取り組んでいる。着地型観光ツアーも定着してきたやさきである。この問題は隣の色麻町、大崎市（鳴子）だけでなく、最上町（赤倉）、尾花沢市など山形県の各自治体にも協力してもらつたなど反対運動を広げたい。

木村哲夫 加美町子ども会育成会連合会長

子供たちのため、私たちのできる全てのことをしなければならぬ。子供たちは、その姿を見て育つ。一度、この町に最終処分場を造ってしまったら、子、孫に阻止できなかつたことを語ることにまつまう。

反対署名の状況

平成26年4月30日までに寄せられた建設反対署名についてお知らせします。

- 放射線廃棄物最終処分場建設に断固反対する会（構成団体46団体） 1万6千348名
- 指定廃棄物最終処分場に断固反対する町民の会（区長会）「有権者の64・6%」 1万3千657名
- 放射性指定廃棄物最終処分場建設反対運動の会（加美よつば農業協同組合実行組合長会） 1万3千535名

合計 4万3千540名

※これらの署名は、貴重など意見として国・県に提出してまいります。

この記事に関する問合せ先

危機管理室 ☎63-5264